



変化の激しい時代のなかで明るい未来を切り拓ける逞しい人を目指して

時代の変化が激しく、子どもたちを取り巻く環境が変わりつつあるなか、子どもたちが社会に出るとき、どうなっているかも想定しづらい時代になりつつあります。そんな時代に生きる子どもたちには、どんな環境でも夢を描き挑戦し続け、明るい未来を自ら切り拓いていく逞しさが必要になります。そのために、夢に向かい自ら進んで行動し、人との繋がりを大切にできる子どもたちを育みたいと考えました。

そのためには、
難しいことにも「挑戦する勇気」と、人の立場に立って考えられる「思いやりの心」
を育む必要があると私たちは考えました。

「挑戦する勇気」と「思いやりの心」を育むきっかけとなる事業

子どもたちにとって社会は未知の存在です。青少年期に社会を疑似体験することで、仕事を通し様々な挑戦をし、様々な人と助け合っている大人の姿に触れて欲しいと考え職業体験事業を行いました。また、多くの人の繋がりと職業の繋がりから、互いに不可欠な存在であることを仲間と一つのことを創り上げるなかで知ってもらうためにファッションショーを企画しました。青少年育成における職業体験は、本年度で2年目となります。理想を描ける子どもたちを育むことを目的に行われた昨年度の事業に対し、本年度は「挑戦する勇気」と「思いやりの心」を育むきっかけに繋がる事業として実施しました。

キッズドリームワークス2014概要

今回の事業では、敢えて子どもたちに難しい事に挑戦してもらい、そのプロセスのなかで、互いに支え高め合い仲間の存在の大きさを実感してもらいました。子どもたちはやり遂げた達成感と自分の成長を感じ自信をもつことで、新たなことにも果敢に挑戦する勇気をもつと共に、仲間と助け合うなかで、相手の立場になって考える思いやりの心を育むきっかけに繋がりました。

対象 岐阜市近郊の小学校4・5・6年生の300人

業種 衣装制作・音響・司会者・照明・新聞記者・TVカメラマン・花屋・舞台制作・美容師・ファッションコーディネーター・メイク・モデル・レポーター



1 事前学習から体験教室、ファッションショーを経て振り返りを行う流れ

達成感と成長、仲間の存在の大切さを感じてもらうために、職業ごとに分かれ、体験して学んだことを活かしファッションショーを創りあげる流れを想定しました。その流れをより効果的なものにするために、事前学習で子どもたちの意欲を高め、事業の最後にこれまでの振り返りをするすることで、達成感と成長から自信を感じることに、仲間の存在を実感してもらいたいと考えました。

事前学習	体験教室	ファッションショー	事後学習・振り返り
 <p>6月1日(日) 9:00~12:30 岐阜聖徳学園大学 岐阜キャンパス</p> <p>子どもたちの体験への意欲を高めるため、全員で夢に向けて挑戦することの大切さについて学んだあと、各職業の先生から仕事の役割についてお話いただくことを企画しました。</p>	 <p>6月2日(月)~28日(土) 各職業ごとに分かれ3回開催</p> <p>自信をもち仲間の存在の大きさを感じてもらうために、各職業に分かれて、職業の課題とファッションショーに向けての課題に挑戦してもらう体験教室を企画しました。</p>	 <p>6月29日(日) 9:00~14:30 岐阜聖徳学園大学 岐阜キャンパス</p> <p>多くの人の繋がりと職業の繋がりが、互いに不可欠な存在であることを感じてもらうため体験教室で学んできたことを活かし与えられた役割をやり切る場として企画しました。</p>	 <p>6月29日(日)15:00~16:30 岐阜聖徳学園大学 岐阜キャンパス</p> <p>達成感と成長から自信をもち、仲間の存在の大きさを実感してもらうために、体験した内容を振り返り発表をし、明日からがんばることを宣言してもらうことを企画しました。</p>

2 子どもたちにとって難しい課題(高いハードル)に挑戦

3回の体験教室を通し、子どもたちに段階を踏んだ挑戦(①「職業の課題」と②「ファッションショーに向けての課題」への挑戦)をしてもらうことで、高い意欲で挑戦をし続けてもらえると考えました。諦めず何度も練習していくなかで進歩がみられたり、できるようになっていくプロセスは、子どもたちの達成感を高め、成長への実感に繋がると考えました。また、高いハードルであるがゆえに、助け合い、仲間の存在の大きさへの実感に繋がると考えました。

職業の課題(基礎技術)への挑戦

各職業の技術は子どもたちにとって、非常にハードルが高いものですが、そのなかでも、職業の基本となる技術にスポットを当て、挑戦してもらうことを計画しました。体験教室の1回を使って行ったり、家庭にもち帰り1ヶ月間かけて行うなど、職業により異なった挑戦を企画しました。



ファッションショーに向けての課題に挑戦

ファッションショー本番に向け、職業ごとにステージコンセプトについて話し合い、学んだ技術を応用する難しさに挑戦することを企画しました。体験教室で学んできた職業の特性を活かし、本番で実践できるよう練習し、仲間と試行錯誤を繰り返してもらうことを想定しました。

3 3~4人の小グループで挑戦

それぞれの職業を体験する子どもたちを3~4人の小グループに分けることで、次の3つの機会が促され、相手の立場に立って考える思いやりの心を育むきっかけになると考えました。

互いに助け合う機会

小グループをつくり、グループ単位で練習したり製作を行っていくなかで、子どもたちの仲間意識が高まり、相手の立場に立ち、考え助け合う行動に繋がると考えました。

互いの意見を尊重し合う機会

課題の実現に向けて、小グループのなかで各々の考えを時間をかけて話し合うことで、互いの意見を尊重し合える機会をもてると考えました。

互いに役割分担を行う機会

小グループのなかで互いに役割分担を行ない、相互に補完し合うなかで、自分の欠けていた配慮に気づき、相手の立場に立って考える機会に繋がると考えました。

結果

事前学習



全体講師の講話

夢や理想を実現するために働いている大人もいる。その挑戦する姿勢が大切であるという熱いメッセージを伝えていただきました。



各職業の先生のお話

各職業の先生からは、職業の内容とファッションショーにおける役割、さまざまな職業が関わってファッションショーが成り立っていることを話していただきました。

体験教室

2つの挑戦を行う舞台として、また職業を知ってもらうために、様々な場所で3回の体験をさせていただきました。

ダンススクール



テレビ局



花屋



新聞社



アパレル会社



ラジオ放送局



材木工場

職業の課題(基礎技術)への挑戦

花屋



挑戦

切り花の蕾を最後の一輪まで咲かせ切ろう!

通常は2、3日で枯れてしまう切り花の蕾を咲かせるためには、日常のケア方法がカギとなります。毎日の管理に苦労した様子でしたが、最終日には「綺麗に咲かせたよ～」と実際に花を持参し自慢げに見せてくれた子どももいました。

ファッションショーに向けての課題に挑戦



挑戦

ステージコンセプトや衣装、メイクに合わせたフラワーアクセサリーを作ろう!

どの花を使って何を作るかを小グループで考え、作成していくプロセスは子どもたちの発想の豊かさに驚かされました。休憩時間も惜しみ、教え合って作業する子どもたちの姿は、挑戦に対する充実感を感じている様子でした。

舞台製作



挑戦

ノコギリの技術を学び、真っ直ぐに切って立方体のサイコロを作ろう!

真っ直ぐに切って綺麗な立方体のサイコロを作るためには、切る人と木材を押さえる人の連携が必要です。何度やっても難しい様子でしたが、協力し合って少しずつできることが増える度に子どもたちは目を輝かせていました。



挑戦

コンセプトに合わせた装飾を考え、楽しんでもらえるステージを作ろう!

最初はコンセプトをどうやって表現するかに頭を悩ませていた様子でしたが、実際に製作していく中で「頭の中で想像していたステージが実際に出来上がっていく」楽しさを感じた様子でした。

互いに助け合うシーン



モデル

お互いにウォーキングや、ポーズの形やタイミングをチェックし教え合うことができました。



TVカメラマン

画面からモデルが見切れないように、小グループで声掛けが自然とできるようになっていきました。

互いの意見を尊重し合うシーン



音響

ステージに合った選曲をして行く中で、自分の意見だけでなく仲間の話も取り入れながらまとめていきました。



照明

スイッチのタイミング、合図の仕方などについてお互いに意見を出し合い、他の職業とも連携して決めていきました。

結 果

ファッションショー

13業種の職業が体験教室で学んできたことを活かし、与えられた役割をやり切り、他の職業の仲間と共に思い出の詰まったショーを創り上げました。



事後学習・振り返り

振り返りシート



本番を終えた後に、今回の体験で挑戦したことや友達に助けられたことをシートに記入しました。

成果発表



頑張れたこと、できなかったことを、自分の言葉で話そうという気持ちが伝わってきました。

星形シート



明日から挑戦することを書いた星形シートには、様々な宣言が書かれていました。

- ・新しい服を自分で作れるようになりたい。
- ・ウォーキングの練習を毎日してモデルになりたい。
- ・言いたいことが相手に伝わる様に話せる人になりたい。
- ・美容師さんになって色々なセットができるようになりたい。

職業の課題(基礎技術)への挑戦

ファッションコーディネーター



挑戦

みんなに良いねと言ってもらえるコーディネートを目指そう!

色の配色や生地の種類など、見る人にどのような印象を与えるのか意識しコーディネートを考え仲間と相談して決めることが難しい様子でした。最後にはどのチームも納得のいくコーディネートができていました。

ファッションショーに向けての課題に挑戦



挑戦

コンセプトに合った衣装を選び、コーディネートのポイントをまとめよう!

コンセプトに合わせ上下のコーディネートを考え仲間と意見を合わせる難しさに頭を悩ませていましたが、自分達の選んだコーディネートを自信を持って発表する姿から、子どもたちの成長を感じました。

メイク



挑戦

メイクの基本である付けまつ毛を時間内に付けられるようになるう!

目のラインに合わせてまつげを短時間に綺麗に付けることが難しく何度も挑戦していました。練習を重ねるうちに、グループでコツを教え合い身に付けていき、時間内にメイクができるようになっていきました。



挑戦

コンセプトやモデルに合わせたメイクの方向性を考えてみよう!

さわやかに見えるメイク、柔らかい印象に見えるメイクなど、基礎知識を元にメイクの方向性を考え紙にまとめることが難しい様子でした。最終的には、どのチームの紙にも、目一杯、個性豊かなメイクが色鉛筆で書かれていました。

互いに役割分担を行ったシーン



メイク

グループのなかで、仲間同士お互いに役割を交代しあい、メイクされる時のモデルの緊張感や長時間座って待つことの大変さを体験しました。緊張をやわらげるためにはどうしたらいいかを考え本番に活かしました。



美容師

実際に体験してみると、強く髪の毛を引っ張られ痛かったり、髪の毛がかゆくなったりと、体験してみても新たな気づきがあったようです。本番では、モデル役の子に「痛くないですか?」といった声掛けができていました。

結果検証

体験のなかでは、果敢に挑戦する子どもたちの姿がありました。できなくても、次のチャンスに頑張ろうとする子どもの姿、仲間と助け合い前に進もうとする姿に子どもたちの逞しさを感じました。グループのなかや先生に対して、自分の意見がはっきり言えなかった子どもたちのなかには、体験が進むにつれて自己主張ができるようになった子どももいました。



レポーター

最初は声をかけられず、もじもじしていた子どもも練習し挑戦していく中で、少しずつ堂々と取材ができるようになっていきました。



新聞記者

一人では声をかけづらい場所も仲間と一緒にいき、グループ内で助け合い声掛けが自然とできるようになっていきました。



衣装制作

最初は自分の表現したいことが言えなかった子どもも、終盤には、意見を堂々とと言えるようになっていました。



司会者

体験教室の時だけでなく、家に帰ってから自主的に練習をし、本番では自信たっぷりに司会ができるようになっていました。

子どもたちの振り返りシートや保護者のアンケート、職業の先生のコメントから、子どもたちが体験を通し、何度も頑張りが続けたことによって自信を高めたことや、仲間を大切に思う気持ちを育んだことを読み取ることができました。

振り返りシート

「難しかったこと」の問いでは下記のような記載がありました。

新聞記者

取材して質問に答えてくれたことを早くメモするのが難しかった。

司会者

シナリオをうまく読むことと、アドリブを入れるのが難しかった。

できた理由とこれからの意気込みを聞く問いでは、下記のような記載がありました。

新聞記者

取材内容をどうやって記事に書けば良いか分からなかったけど隣の子と一緒に頑張れた。人を助けられるようになりたい。

司会者

教室や家で何度も繰り返し練習したら少しずつ出来るが増えてきた。諦めずに色々なことをやってみたい。

今回の体験のなかで、「諦めず何度も頑張りが続けたことができた」「友達と助け合うことができた」とする回答が多くあり、体験を終えての子どもたちの自信と仲間を大切に思う気持ちを感じました。

保護者アンケートに書かれた子どもたちの変化

- 体験教室後ニコニコ帰ってくる姿、「お友達できたよ」と嬉しそうに帰ってくる姿が嬉しかった。
- 参加する回を重ねるごとにできることが増えるのが嬉しかったらしく、目を輝かせて通う子どもの姿が印象的だった。

職業の先生からみた子どもたちの変化

- デザインを少し変更しようとしたら「私達のつくったものに勝手に触らないで」と言われ、友達と一緒につくった作品に大人の想像以上にプライドをもっていることに驚いた。
- 最初あまり意見を言えなかった子どもたちが自分たちで決めた内容を形にする過程で自分の意見を言ってくれるようになったことに驚いた。

保護者のアンケートや職業の先生の声からも、子どもたちの自信がうかがい知れます。また、「自分達の作品だ」と子どもたちが強く思う気持ちからは、仲間との連帯感や大切に思う気持ちの表れを感じました。

★星形シール★

明日から頑張ることを宣言したシールには、子どもたちのやりたいこと、なりたいことが明確に書かれていました。

事業を通し自信を付けた子どもたちの、新たな挑戦への意欲を感じました。



会場では毎回、子どもたちが課題に向かって挑戦し続ける姿や、仲間同士で互いに助け合う姿を目にすることができました。実際に子どもたちからの声や、保護者の方々・職業の先生からの声からも、そうした姿をうかがい知ることができます。では、この姿が事業後、子どもたちにとってどのような変化に繋がったのでしょうか。次のページでは、事業の一ヶ月後、当委員会が各ご家庭に対して行った子どもたちの変化についてのヒアリング結果をまとめました。

■事業を終えた後の子どもたちの変化

事業一ヶ月後、保護者の皆さんにヒアリングを行ったところ、こんな子どもたちの変化が分かりました。

保護者へのヒアリングより

- ・新しい自分の服作りにチャレンジし、毎日少しずつ作業をやっています。
- ・引っ込み思案だったけど、少しずつ前になるようになり積極的になった気がします。
- ・将来やりたいことが明確になったようで、親の仕事についてなど色々聞いてくるようになりました。
- ・友達との時間を大切にできるようになり、一緒に遊びに出ることが多くなりました。
- ・今まで学校のことなど話してくれなかったが、その日にあったことを家で話すようになりました。

新たなチャレンジをしているという声が多くありました。事業を通して得た自信が子どもたちの背中を後押ししているように感じます。今回の事業は、子どもたちなりに、悩み考えて過ごした一ヶ月間だったと思いますが、今回の体験から学んだことを今後活かしていってもらえればこれほど嬉しいことはありません。



まとめ

今回の事業では、やり遂げた達成感と成長の実感が自信となり、事業後、子どもたちの「新しいことをやってみよう」という意欲を引き出しました。また、友達と一緒に助け合ったことで、周りの人への思いやりの心を育むきっかけにもなりました。一見難しそうなことにも諦めず果敢に挑戦する姿勢と、共に助け合える仲間の存在は、夢や理想に向かって諦めず挑戦し続けていく原動力になると考えています。

変化の激しい時代のなか、明るい未来を自らの手で切り拓くことのできる逞しい人をぎふのまちで育むために、今回のような体験がもっと気軽にできる必要があると感じています。

事業後、職業の先生から「自分の仕事が子どもたちのためになるのが嬉しい」という声をいただきました。このことから、今回の事業に携わった大人に、青少年育成に携わる必要性を感じていただけたと考えています。この報告書には、本年度未来の宝創造委員会が効果を想定し企画した事業の内容とその成果を記載させていただきました。

子どもたちの成長の軌跡から、子どもたちのもつ大きな可能性と大人の青少年育成に携わる必要性を感じていただきたいと思います。今回の報告書が、ぎふのまちにおいて、子どもたちの逞しさを育む一助となることを願っています。

公益社団法人 岐阜青年会議所 未来の宝創造委員会 委員長 金山輝弘

発行 公益社団法人 岐阜青年会議所
2014年度未来の宝創造委員会

副理事長 柳原 弘幸

室長 兼山 英治

編集責任者

委員長 金山 輝弘

副委員長 磯谷 満

副委員長 市橋 拓

副委員長 河村 岳明

委員 青山 友彦

委員 浅野 寛榮

委員 石川 幸敏

委員 岡田 誠

委員 河合 俊彦

委員 佐藤 竜彦

委員 高橋 鏡充

委員 辻 正城

委員 西垣 忍

委員 堀 俊幸

委員 渡邊 悠司

委員 渡邊 洋平



公益社団法人 岐阜青年会議所
2014年度 未来の宝創造委員会